「伊丹諸白」と「灘の生一本」

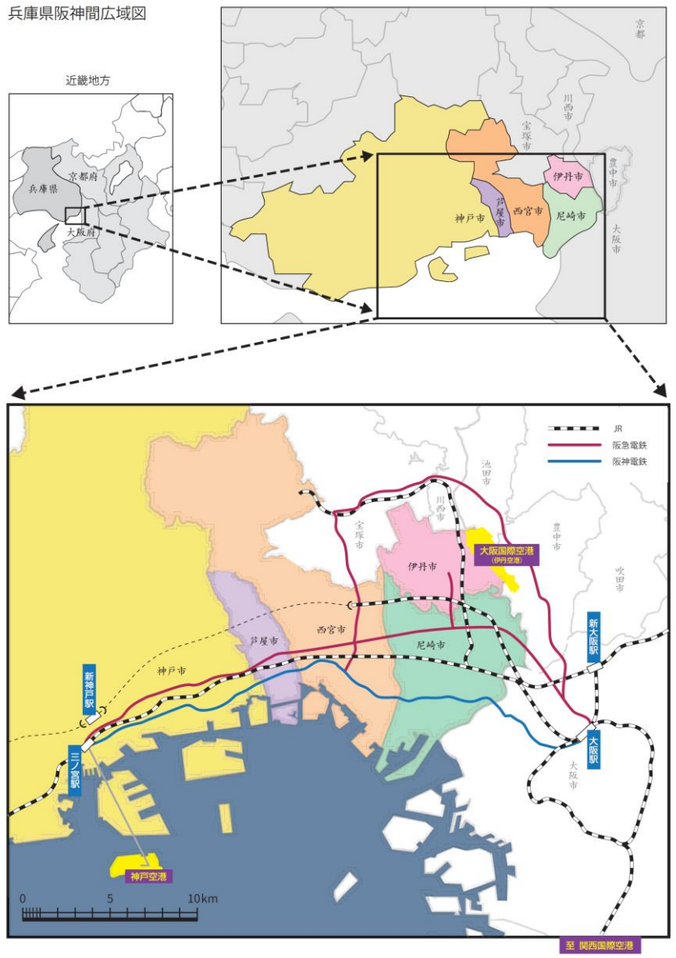
下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷

江戸時代、伊丹・西宮・灘の酒造家たちは、優れた技術、良質な米と水、酒輸送専用の樽廻船によって、「下り酒」と称賛された上質の酒を江戸へ届け、清酒のスタンダードを築きました。酒造家たちの技術革新への情熱は、伝統ある酒蔵としての矜持と進取の気風を生み、「阪神間」の文化を育みました。

六甲山の風土と人に恵まれたこの地では、水を守り米を育てる人々、祭りに集う人々、酒の香漂う酒造地帯を訪れ、蔵開きを楽しむ人々が共にあり、400 年の伝統と革新の清酒が造られています。

伊丹市ホームページ

小西酒造「長寿蔵」（白雪ブルワリービレッジ長寿蔵）



令和２年度日本遺産認定

「伊丹諸白」と「灘の生一本」

下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷

JAPAN HERITAGE

日本遺産

現存する日本最古の酒蔵
「旧岡田家住宅・酒蔵」（国指定重要文化財）

兵庫県

伊丹市・神戸市・尼崎市・西宮市・芦屋市

1「澄み酒」の出現と「伊丹諸白」

六甲山を西に望む「伊丹」。伊丹市鴻池に建つ碑に、「山中家は酒造によって財をなし，慶長 5 年（1600）から 200 年も続いている。その初代は幸元で山中鹿之介の子であると言われてる。鴻池家は，はじめて清酒諸白を製造し，江戸まで出荷した。」と刻まれています。白く濁った「濁り酒」ではない「澄み酒」が生み出された、「清酒発祥の地・伊丹」を伝える伝承です。江戸では、関西・上方から送られた諸産物を「下り物」として好みました。なかでも酒は、「下り酒」として歓迎されました。とりわけ伊丹の酒は、麹と掛米両方に精白米を惜しみなく使ったことから「伊丹諸白」と呼ばれて珍重され、江戸で人気を博しました。江戸時代の名所案内記『摂津名所図会』に「名産伊丹酒」として、「伊丹には造り酒屋が 60 軒余りある。どの酒屋も美酒を数千石造り、全国各地に送り出している。銘柄を印した菰樽を神崎に送り、そこから廻船に積んで多くが関東へ送られる。」と記され、下り酒の名産地、江戸積み酒造・伊丹の名を馳せました。

地域の文化財を愛し四半世紀の歴史を誇る「伊丹市文化財ボランティアの会」のガイドで、我が国最古の酒蔵・商家が残る重点景観形成区域「伊丹郷町」や清酒発祥の碑などの文化財を訪れ、清酒発祥の地・伊丹を体感することができます。

現存する日本最古の酒蔵
「旧岡田家住宅・酒蔵」に展示される酒造道具等の見学

2　六甲山の恵みと丹波杜氏が生んだ「灘の生一本」

ここは、「灘五郷」。六甲山の麓、西宮市の今津郷・西宮郷から、神戸市東灘区の魚崎郷・御影郷・灘区西郷へと続く東西 12 ㎞に及ぶ日本最大の清酒酒造地帯は今日、「灘五郷」と呼ばれ、その酒は「灘の生一本」で知られます。現在約 25％のシェア、我が国清酒の 4 本に 1 本が灘五郷の酒です。

伊丹から清酒造りを導入した西宮・灘の酒蔵は、背後にそびえる六甲山から多くの恵みを得、下り酒の産地として台頭します。

六甲山の東南麓、西宮郷で汲み上げる伏流水「宮水」は、酒造りの天与の霊水といわれ、淡麗な「灘の男酒」を生みました。新酒の仕込みが始まる 10 月、「宮水まつり」として宮水が発見された「梅の木井戸」の地に立つ「宮水発祥之地碑」の前で、時代装束をまとった各酒造会社代表が神事に参列したあと西宮神社に向かい、えべっさんの酒醸造祈願祭を行います。

灘の生一本と共に育った最良の酒米として知られる「山田錦」は、昭和 11 年（1936）、兵庫県立農業試験場で誕生しました。現在、山田錦は蔵元と農村が生産契約を結ぶ「村米」制度のもと、気候・土壌が栽培に適した六甲山の北側に広がる水田地帯で大切に育てられています。

えべっさんの酒醸造祈願祭を行うため西宮神社本殿まで練り歩く

3　「下り酒」と「樽廻船」

下り酒を江戸へ届けたのは、酒輸送専用の樽廻船でした。幕末には、樽廻船で江戸へ下った酒は 1 年 100 万樽、江戸の酒の 8 割を占めました。樽廻船は、明治になってその地位を汽船や鉄道に譲るまで江戸へ酒を送り続け、伊丹・西宮・灘の江戸積み酒造の発展を流通から支えました。「新酒番船」は、新酒を積載した樽廻船の江戸への着順を競う番船、つまり船のレースで、西宮―江戸間の最速記録は 57 時間と伝わります。

今津郷・大関長部家の今津灯台と尼崎市神崎の石灯籠は、金毘羅宮を勧請して航行の安全を祈願した常夜灯です。兵庫・西宮・大坂を出帆した樽廻船は、江戸への途上、熊野灘、遠州灘など難所を航海します。船倉に積み込まれた酒樽が荒波で壊れないよう、また潮風にさらされて酒の味が落ちないよう、大切に菰で包む菰樽が開発されました。

今日、華やかな鏡開きに欠かせない菰樽づくりは、尼崎市塚口で全国 8 割のシェアを誇り、菰樽づくり体験でにぎわいます。

伊丹の樽廻船問屋が描かれた錦絵（大坂安治川口）　伊丹市立博物館所蔵

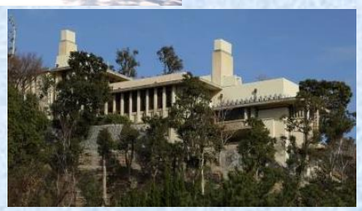
4　酒造家が育んだ文化

この地域に生き、この地域の発展を願った酒造家たちは、江戸積み酒造がもたらした富を芸術、文化、教育や建築に注ぎました。フランク･ロイド･ライトの設計で有名な「旧山邑家住宅」は、魚崎郷・櫻正宗山邑家の別邸です。灘五郷の背後、六甲山の山肌に沿うように建つこの住宅は、この地域を愛した酒造家の進取の気風を伝える代表的な近代建築です。昭和 4 年（1929）建築の校舎が残る灘中学校・高等学校は、御影郷・菊正宗嘉納家・白鶴嘉納家、魚崎郷・櫻正宗山邑家の人材育成の志を受けて創設された学校です。

酒造家たちの文化への眼差しは今日「阪神間モダニズム」と称される近代文化勃興の核となり、近代化への思いは阪神間の都市の骨格を形作りました。

伊丹・灘五郷では、酒造家のコレクションを展示する美術館や酒蔵を利用した博物館など 20 のミュージアムで、地域文化興隆への思いに触れることができます。

「私立灘中学校・灘高等学校本館」



「旧山邑家住宅（淀川製鋼迎賓館）」